

大城ひかるのベトナム



通信

-31-

シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ



水上市場の食堂に舟を横付けし注文、食べ終わったら食器を回収してもらう（筆者撮影）

ホーチミン市内観光は別として、ベトナムで初めて旅行らしい旅行をしたのがミトーの「メコン川クルーズ」でした。ミトーはホーチミンから南へ60キロ、車で2時間ほどで行ける街。旅行各社が競って格安日帰りメコンツアーを販売しています。私もそんなツアーの一つに乗って朝早くホーチミンを出発しました。ベトナムにだいた慣れた今でも「メコン川」とか

「メコンデルタ」と聞くと、その東南アジア感にワクワクします。初めてのメコンの旅はそれは楽しみでした。

メコン川はチベット高原に端を発し、中国、ミャンマー、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナムの6か国を流れる東南アジア最長の川。全長は4,000キロにも及ぶそう。ベトナムに入るといくつにも分岐して支流を作り、最終的に南シナ海に抜けていきます。メコンデルタ地方はベトナム最大の米どころです。ミトー観光は川の中に浮かぶ4つの島のうちの1つ、タイソン島に船で渡るころから始まりました。対岸までの川幅が3キロと聞いて「いくら何でも3キロは...と疑ったのですが、すぐそばに見える

メコン川で暮らす人々

るラックミエン橋が橋の部分だけで2・8キロあると聞き、認めざるを得ませんでした。ミトーは海まで50キロ、川を200キロさかのぼるとカンボジアだそう。すれ違う船では、女性が赤ん坊を背負って食事を作っていたり、洗濯物が風になびいていたり、裸の子どもたちがこちらを見ていたり。船上生活をしている人々と出会い、ワクワク感いっぱいタイソン島に上陸したのでした。しかし、どうやらタイソン島は観光用いろいろな施設を集約した島らしく、こじんまりとした果樹園でフルーツを食べながら民族音楽を聞きチップをねだられ、ココナツ工場では次から次へと製品を勧められ、はちみつ工場では勝手に手にク

リームを塗られ押し売りに負けて買い、ジャングルクルーズと称して島内の運河を周遊する小舟でも漕ぎ手に「チップチップ」と言われ、正直あまり良い印象がないままホーチミンに戻ってきたのです。

そのリベンジではないのですが、しばらくしてから水上マーケット「カラン市場」で有名なカントーに行ってみました。カントーはメコンの分流であるハウ川が流れ、街に入るときには日本のODAによるカントー橋がその美しい姿で出迎えてくれます。2010年に橋が完成する前はフェリーがメコン兩岸をピストン輸送していた

そうです。

朝5時に出発した水上市場もユニークな体験だったので、朝焼けに染まっていくメコン川の美しさ、水上マーケットで朝食のフーティユをおごろうとしたら「私は良いから」とにっこり断った船長のお姉さん、給油のために立ち寄った川中のガソリンスタンドのお兄さん、川中の雑貨店で寝そべっていた黒い犬、自作の小さい発砲スチロール船を漕いでいたオジさん——橋の完成にかかわらず川と暮らす人々の生活を垣間見ることができ大満足。これから旅はやめられませんが、ときどき失望はあったとしても。

ベトナム南部地図

